

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

覆砂漁場で大量発生したアサリ稚貝の保護手法の検討(網田地区)

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的】

管内のアサリ資源は低水準で推移しており、その資源回復のためには産卵母貝を保護し、浮遊幼生の数を増やしながら資源量の底上げを図ることが必要である。そこで、熊本市松尾町地先において、アサリ稚貝を網袋に入れて保護・育成する「大野方式」で育成したアサリを活用し、被覆網による母貝場造成の実証試験を行った。なお、今年度は、被覆網のアサリ保護効果を把握することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 現場での実証試験

月日：令和2年(2020年)6月16日

場所：宇土市網田地先(平成30年(2018年)施工の県営覆砂漁場内)

内容：水産課から網田漁協アサリ部会(以下「アサリ部会」という。)に「大野方式網袋採苗」の情報提供を行った。その後、アサリ部会がアサリ稚貝の発生が確認された覆砂漁場内の3地点に試験区と対照区を設定。試験区には、「大野方式網袋採苗」に従い、市販の種籾袋に袋の面積相当(35cm×45cm)の厚さ3cmの表層の砂を入れ、計60袋(1袋/m²、20袋/試験区)を設置した。

(2) 追跡調査

月日及び対応者：、9月18日 計2回

令和2年(2020年)8月5日 アサリ部会員2名、水産課1名 計3名

令和2年(2020年)9月18日 水産研究センター1名、水産課1名 計2名

方法：アサリ稚貝の生息密度を把握するため、設置後1ヶ月半及び3ヶ月後に10cm×10cm(0.01m²)方形枠により、試験区の袋内と対照区(1m²/点)を枠取り調査を実施した。また、現場にて目合2mmのふるいを用いて、アサリ稚貝の数量と殻長を測定し、採取場所に戻した。

結果：全試験区の平均生息密度は、対照区と比較して、設置後1ヶ月半で3.2倍、設置後3ヶ月で8.6倍であり、網袋の保護効果が確認できた。また、対照区は、調査期間中にアサリ稚貝の約7割が消失した。終了時の網袋内と対照区のアサリ稚貝の殻長比は1.5倍と網袋内での育成効果も確認された。

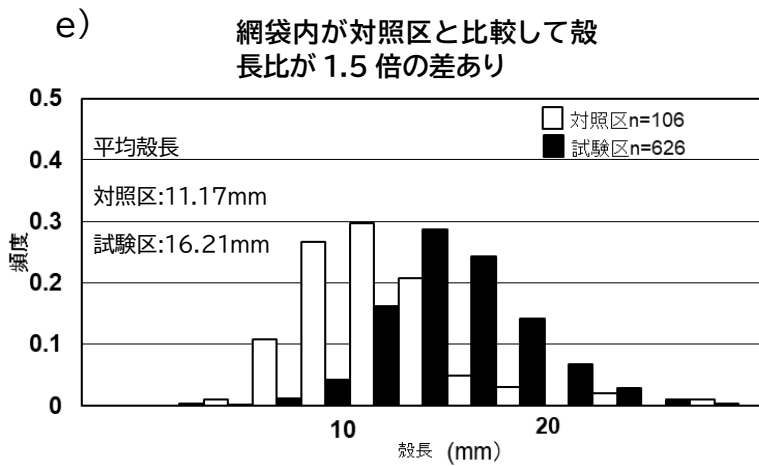
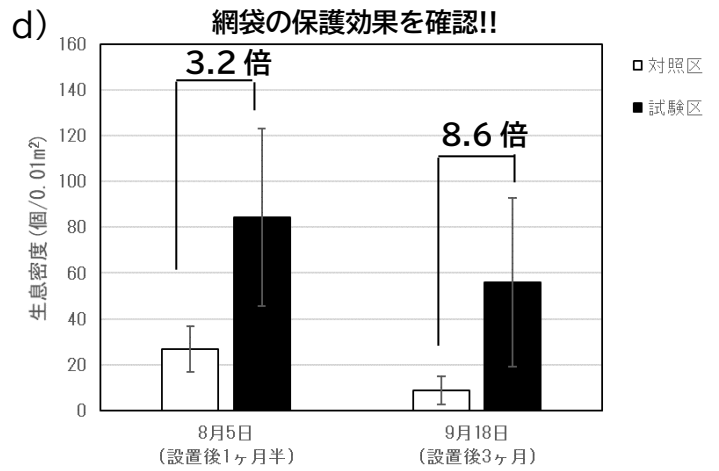
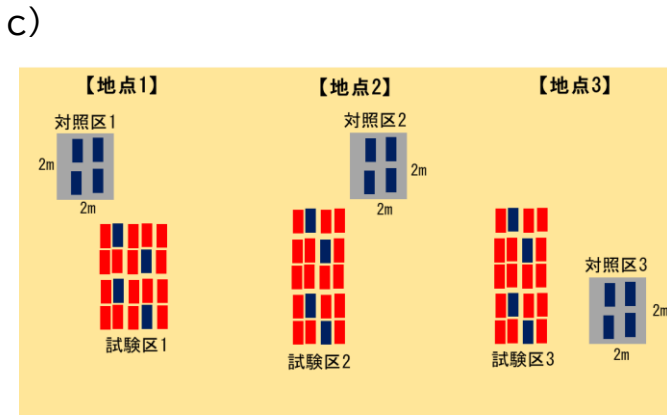
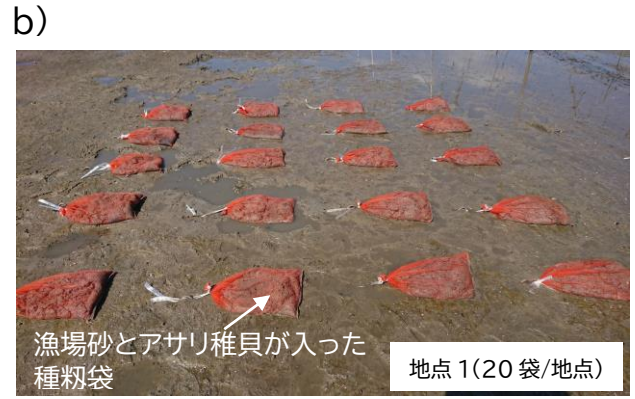
【成果・活用】

本結果について、漁協及びアサリ部会に情報共有した結果、「大野方式網袋採苗」が覆砂漁場で発生したアサリ稚貝の新たな保護手法としての有効性が認識された。

【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76~100%)

(様式)



a) アサリ部会による網袋の設置作業の様子、b) 網袋の設置状況(地点 1)、c) 試験区の設定方法、d) 設置後 1 ヶ月半および 3 ヶ月の全地点を平均した生息密度の推移、e) 試験終了時の全地点を平均した各長組成、f) 試験終了時の枠取り調査(0.01m²内)で得られたアサリ稚貝(地点 1)